

現代政策学部 福井康寛

私は、2月5日から約2週間、ハンガリー研修に参加しました。この研修を通して、ハンガリー人学生との交流や ICT に関する英語での講義などに参加しました。そこで私は、この研修を通して学んだことを3つ述べます。



1つ目は、英語でのコミュニケーションです。私は、ハンガリーに着いてからの1、2日目は、英語を話すことに慣れていなかったこともあり、あまり自分からハンガリー人学生と会話することができませんでした。ですが、まずは失敗を恐れず、自分から話しかけることを意識して英語で会話することに注力しました。すると、徐々にハンガリーの学生とある程度、英語で会話することができました。しかし、少し問題が出てきました。それは、日本で習う英語と実際に話す英語では違いがあるということです。なので、私が知らない表現を聞いたその都度自分で調べて、英語力の向上に努めました。また、ホテルの受付の方とのやりとりやホテル内の案内を見て、常に英語に触れることを意識しました。その結果、完全ではないものの、英語で会話することができ、お互いに冗談が言えるほどに上達しました。

2つ目は、ICT教育やAIについて、理解を深めることができたことです。本研修はICT教育を主題とし、ハンガリーの政府情報技術開発庁長官への訪問やエトヴェシュ・ロラード大学（以下、ELTE大学）やブタペスト商科大学でICTに関する講義などAIやICT教育について学ぶ



機会がたくさんありました。そこで学んだのは、ハンガリー経済の競争力向上のために2016年からデジタル教育戦略であるDigital Educational Strategy（以下、DES）を中心に積極的にICT教育を行っているということです。また、EUのデジタル教育行動計画など、ハンガリーだけでなく他の機関と協力していることがわかりました。そして、日本語授業で使用するデジタルツールの講義でChatGPTを言語チューターとして活用するなどAIを用いた学びについて知ることができました。AIを言語チューターとして活用することができると知り、使う側のスキルが必要だなど思うのと同時に、ICT教育の重要性を感じました。一方、ELTE大学自然科学部のコレン・バラシユ教授による講義では、AIやICT機器を使った教育は、スマホ等がないと何も理解できなくなるなど、デメリットについても学ぶことができました。このように、ハンガ

リー政府が提供している DES という ICT 教育について深く知ることができました。また、ICT 教育のメリットとデメリット両方を学ぶことができました。

3つ目は、異文化の経験ができたことです。ブタペスト市内は、石造りの建物を中心に多くの場所で教会がみられました。特に、ハンガリーのライトアップされた国会議事堂は息をのむほどきれいな建物で感動しました。ブダ城のマーチャーシュ教会では、ネオゴシック様式に代表されるステンドグラスが使用されており、教会の形をした主祭壇がみられました。また、食文化の違いにも驚きました。日本では、チーズはおやつやおつまみのようなものでチーズ単体ではあまり食べることはありません。しかし、ハンガリー人学生とレストランに行ったときに大きなカマンベールチーズを主菜として食べていたのがとても印象的でした。



最後に、ハンガリーの学生との交流をはじめ、政府情報技術開発庁への訪問など、この研修でしかできない経験をすることができました。この研修で学んだことを将来に活かしていけるよう英語の勉強を続けていきたいと思います。そして、このハンガリー研修に携わってくださったハンガリーの学生と教授の方々、城西大学の関係者に感謝致します。Köszönöm szépen